

<報 告>

広島大学大学院人間社会科学研究科附属特別支援教育実践センター 令和4年事業報告

I. はじめに

本センターは、特別支援教育分野に関する基礎的・実践的研究を推進するとともに、教育相談や研修活動等を通じて地域社会に貢献することを目的としている。ここでは、本センターが実施している教育相談・臨床活動、研究活動、研修活動および地域貢献活動について報告する。

II. 令和4年事業報告

1. 教育相談・臨床活動

令和4年1月1日から12月31日までに、特別支援教育実践センター職員、および教育相談員として特別支援教育学領域教員が実施した教育相談・臨床活動の障害種別の実績を Table 1 に、年齢別の実績を Table 2 に示した。今年は新型コロナウイルス感染予防のため、1月から3月までの約2か月間、対面による教育相談の実施を中止した関係から、本センターで相談・支援を実施した利用者は、広島県を中心とした中国地区からの利用者がほとんどであった。来所による相談

Table 1 教育相談・臨床活動のべ件数（障害種別）

障害カテゴリー	対面	対面以外（オンライン・電話）
視覚障害	19	16
聴覚障害	7	1
知的障害	31	2
肢体不自由	6	0
言語障害	73	20
発達障害	207	155
合計	343	194

Table 2 教育相談・臨床活動のべ件数（年齢別）

	対面	対面以外（オンライン・電話）
0歳～6歳（乳幼児期）	19	0
6歳～12歳（学童期）	156	93
12歳～15歳（青年前期）	109	80
15歳～18歳（青年中期）	26	12
18歳以降（成年期）	33	9
合計	343	194

者の居住地域は広島県内を中心としている（東広島市、呉市、広島市）が、国外や県外からも来所者がある。電話相談では、県内をはじめ幅広い地域からの相談に対応した。広島市や呉市の眼科、内科にて出張教育相談も複数回行った。また、広島県内の小・中・高等学校の教員に対するスーパーバイズを行った。広島県内の特別支援学校技能検定の実施協力や、その機会を利用した本学学生向けのキャリア教育・職業教育に関する学習機会の提供なども複数回実施した。

2. 研究活動

(1) 広島大学大学院人間社会科学研究科附属特別支援教育実践センター研究紀要第20号を発行した。受理された原稿は、原著論文4編、実践研究5編、資料1編であった。

(2) 広島大学教育ビジョン研究センター（Educational Vision research Institute: EVRI）や広島市立広島みらい創生高等学校、広島市立井口中学校、広島市立皆実中学校、広島大学附属東雲中学校と連携し、公益財団法人日本生命財団助成による「学びのユニバーサルデザインに基づく日本型インクルーシブ教育システムのロールモデルの開発」を実施した。

(3) 文部科学省「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に採択され、VRによる教材開発等を広島県教育委員会、広島県教育センター、広島県内特別支援学校と共に実施した。

(4) 文部科学省「音声教材の効率的な製作方法等に関する調査研究」事業を受託し、広島大学図書館と協力して、センターの利用者をはじめ、全国208名の利用者に文字・画像付き音声教材（UD-Book）を累計654点（143タイトル）出荷し（令和4年11月30日現在）、利用状況を調査した。（令和元年度より受託）

(5) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課が実施する、「ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方の調査研究」事業を受託し、東広島市立西条小学校及び広島県立黒瀬特別支援学校の協力を得て、年間を通じて定期的に遠隔指導・遠隔授業研究を実施した。（令和3年度より受託）

(6) 文部科学省「ICTを活用した障害のある児童

生徒等に対する指導の充実事業」を受託し、UD-Book規格を開発し、オンラインでの利用を可能にするシステム「広大UD学習支援システム」を構築した。広島中央特別支援学校、福井県立福井盲学校、宮崎県立明星視覚支援学校、広島市立段原小学校、広島市立早稲田中学校と連携して教材の配信を行った。また、東広島市教育委員会と連携して副読本「わたしたちの東広島」を配信した。

(7) 教師教育デザイン学プログラムの教員の協力を得て、広島大学が実施する履修証明プログラム「特別支援教育担当教員育成プログラム（基礎コース）」を4科目開設し、14名の受講登録があった。（令和3年度より実施）

(8) 附属東雲小・中学校と連携し、共同研究「小学校・中学校知的障害特別支援学級における自分や他者を大切に資質・能力を育む授業プログラムの開発」を実施した。

(9) 広島県立西条特別支援学校との共同研究（ICT機器活用に関する研究）を行った。

3. 研修活動・地域貢献活動

学生対象の行事

(1) 本センターと特別支援教育学領域が共同し、令和4年4月16日（土）に、広島大学にて新入生オリエンテーション領域行事を実施した。参加者は、外部講師として4名の現職教員、学部1年次生26名、2年次生9名、4年次生3名、大学院博士課程前期学生2名、大学院博士課程後期学生2名、特別専攻科学生11名、教員7名の計64名であった。

(2) 附属東雲中学校の特別支援学級に在籍する生徒の職場体験学習を受け入れた。本事業に参加した学生は7名で、生徒が行う作業の補助等を行った。

(3) 本センターと特別支援教育学領域が共同し、令和4年7月9日（土）に「就職指導講話」を開催した。参加者は、外部講師2名、学部学生27名（3年次生26名、4年次生1名）、特別専攻科学生9名、特別支援教育学領域教員2名の合計40名であった。

講習・講演

(1) EVRIが実施する「日本国広島大学と中国長春大学との共同教育プログラム」に、「障害乳幼児の理解」（16コマ）、「障害乳幼児の指導」（16コマ）の授業を提供した。

(2) 令和4年度免許法認定講習会（教育委員会主催）を広島県及び県外（山口、鳥取、岡山、香川、徳島、

愛媛）で実施した。

(3) 広島県内特別支援学校における公開授業研究会・校内研修会、県外特別支援学校（岡山、鳥取、和歌山）における校内研修会等で指導助言や講演を行った。

(4) 広島県および県外（愛媛）の小中学校5校における校内研修会で指導助言や講演を行った。

(5) 中島平和財団 International Seminar on Inclusive Education 2022（プータン・スリランカ）にて講演を行った。

(6) 12th International Conference on Special Education in South East Asia Regionにて基調講演を行った。

(7) インドネシア教育省 インクルーシブ教育研修会にて2回基調講演を行った。

(8) The 14th International Conference on Education Techn Online and Computers 招待講演

(9) 全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会にて記念基調講演を行った。

(10) 北海道教育大学 英語小中連携フォーラムにてシンポジストとして参加した。

(11) 中国オージオロジー研究協議会冬季研究会にて講演を行った。

(12) 広島県作業療法士会研修会にて基調講演を行った。

(13) 長崎県言語聴覚士会にて基調講演を行った。

(14) 東京都公立学校難聴・言語障害教育研究協議会にて基調講演を行った。

(15) 愛知県肢体不自由教育研究会にて講演を行った。

(16) 岩手県高等学校教育研究会（特別支援学校教育部会）にて講演を行った。

(17) その他、教育委員会や教育センター等で研修会の講師を担当した。内容は次のとおり。

- ・岡山県小学校教育研究会 特別活動部会
- ・東広島市中学校教頭会第5回研修会 「ICT活用に関する研修」
- ・島根県教育委員会 通級指導教室担当者研修2回
- ・徳島県教育委員会 特別支援教育研修
- ・東広島市教育委員会 特別支援教育研修
- ・東広島市教育委員会 令和4年度第2回特別支援教育担当者等研修会 「ICT活用に関する研修」
- ・広島市教育センター 専門研修講座

- ・新潟県教育センター オンライン研修 「障害のある子どもの学びを広げる ICT 活用講座(視覚障害)」
- ・徳島県立総合教育センター オンライン研修 「特別支援教育における ICT の活用について」
- ・鳥取県教育センター オンライン研修 「児童生徒の困難さを改善・克服するための ICT 活用」
- ・群馬県総合教育センター オンライン研修 発達障害児学習支援研修講座 「発達障害のある子供の ICT を活用した学習支援」
- ・鳥根県立教育センター オンライン研修 「ICT 等を活用した障がいのある児童生徒の指導・支援」

研修会、シンポジウム、ワークショップ等の開催

- (1) ST・ことばの教室教員を対象とした吃音臨床講習会を計5回開催した。
- (2) 第63回～85回特別支援教育 ICT 活用研修会をオンラインで開催し、のべ1,163名の参加があった。

他機関との共催事業

- (1) キャリア発達支援研究会「設立10周年記念大会」を開催した。
- (2) 科学へジャンプイン岡山2022(科学へジャンプ中四国地区実行委員会)を開催した。

学校等への訪問、相談活動等

- (1) 出張相談活動・指導助言の実施
 - ① 広島県内教育委員会(広島市を除く)による LD 等の専門家巡回相談事業の巡回相談員として、のべ6校訪問し、小学校・中学校・高等学校教員、保護者に対する助言を行った。
 - ② 広島市教育委員専門家巡回相談事業の巡回相談員として、のべ5校を訪問し、小学校と中学校教員に対する研修、助言を行った。
 - ③ 広島県内の小学校及び中学校3校を訪問し、のべ7回指導助言を行った。
- (2) 広島県内の小中学校5校、県外(北海道)の小中学校1校への遠隔指導をのべ34回行った。
- (3) 広島県内特別支援学校において学校運営協議会委員(広島南、広島、西条、尾道、広島西)を担当した。
- (4) 放課後等デイサービスに対する遠隔指導をのべ33回行った。

学生派遣等

- (1) 特別支援教育学生サポーター派遣事業を実施した。本事業に参加した学生数は17名で、東広島市内12校の小・中学校に派遣した。派遣については、事前指導(発達障害児等への指導等について)を行った。
- (2) 広島大学附属三原幼稚園において、学生1名が6ヵ月間に渡り、保育サポーターとして活動した。
- (3) 中国長春大学、米国セントクラウド州立大学と e-START プログラムを実施し、本学9名、長春大学15名、セントクラウド州立大学6名の学生が、インクルーシブ教育や障害者の権利条約、持続可能な教育の在り方について意見交流を行った。

4. 国立特別支援教育総合研究所との連携

- (1) 令和4年度学長裁量経費の支援を受け、本学内に西日本ランチ広島オフィス設置に係る整備費及び教育研究推進員1名の雇用にかかる人件費に充当した。
- (2) 国立特別支援教育総合研究所 令和3～4年度障害種別特定研究「知的障害教育における授業づくりと学習評価に関する研究」において、所外研究協力者として研究協議会等で知見を提供した。また、同研究を補完するテーマで委託研究を受託し、研究協力者との研究協議等に基づき報告書を作成した。
- (3) 国立特別支援教育総合研究所の研修講座の講師を2回担当した。
- (4) 特別支援教育総合研究所の研修事業に関連し、令和4年度第三期特別支援教育専門研修(発達障害・情緒障害・言語障害コース)第2回研修事業企画会議に参加し、助言を行った。

5. その他

- (1) 令和4年度学長裁量経費の支援を受け、教育相談・臨床活動の設備備品費及び教育研究補助職員2名(いずれもパートタイム)の雇用にかかる人件費に充当した。来年度も引き続き同経費による支援を受け、教育相談・臨床活動の充実に努めたい。
- (2) 教育相談を利用している中学生が CIEC 春季カンファレンスにおいて「感覚情報処理障害(SPD)があっても学びたい」という論文を発表し U-18優秀賞を受賞した。